

環境企業レポート

NTTドコモ

南三陸町の森林を保全 農薬使わずササニシキ

東日本大震災の被災地、宮城県南三陸町。大津波で甚大な被害を受けた町で、国内のモバイル通信事業最大手のエヌ・ティ・ティ・ドコモ（NTTドコモ、本社・東京都千代田区）が町有林の森林保全活動への支援を始めた。

町との合意は今年2月1日。対象面積は約400㌥で、天然林4割、人工林6割。鳥類など野生動物も多い森だ。

この森林が1年間に吸収する二酸化炭素（CO₂）の総量は約2000トと算定されている。ドコモは一般社団法人フォレストストック協会（東京都港区）によるフォレストストック認定制度を通じて、年間2000ト分のCO₂吸収量クレジットを購入した。

フォレストストック認定制度というのは、国内の森林を対象に、持続的な森林管理と生物多様性の保全の観点から一定の基準を満たした森林を評価し認定するもの。同協会によると、認定を受けた森林は全国27件、計約4万9000㌥ある（2013年5月1日現在）。フォレストストック認定森林において1年間に1㌥のCO₂を吸収するのに必要な森林面積は平均約2.6平方㌥としている。

南三陸町の森林は「芳醇な海を育む母なる森林」とされ、町有林約814㌥が認定された。ドコモが受け持つ400㌥はその約半分にあたる。

ドコモと町とのつながりは、震災1年後の2012年3月から社員ボランティアが町で受け入れられて活動を始めたのがきっかけ。今年6月までに23回延べ681人が参加した。12年4月から

は町外避難者向けに約1300台のタブレット端末を無償で配布し、インターネットのサイト経由で町の行政情報などを配信するサービスもしている（ほかの地域では福島第一原発事故による避難者向けにも実施）。

また、「未来の種プロジェクト～南三



間伐作業を体験するドコモ東北復興新生支援室のメンバー



ササニシキを無農薬栽培する水田で農家の人たちと＝いずれも宮城県南三陸町、NTTドコモ提供

陸町 森・里・海ものがたり～」と名付けた産業振興の取り組みとして、宮城の銘柄米「ササニシキ」を無農薬栽培する契約農家を募り、昨年は1戸が約3000平方㌥の水田で栽培に成功。ドコモのホームページを通じて、2合入りの新米5袋と同町産セリ科の多年草、

トウキの粉末をセットにした詰め合わせ330セットを完売した。今年は契約農家が2戸に増えて6月に計約4000平方㌥の無農薬栽培の水田で田植えを済ませた。

タブレット端末を活用し、栽培農家と都市部の消費者をつなぐことに力を入れる。提供されたタブレット端末を初めて手にした農家が、映像付きで稲の成長や近況をこまめにフェイスブックやホームページで発信、全国のファンとの交流を深めている。

今年6月、南三陸町産のスギの間伐材を活用した、携帯端末を立てかけるグッズ「ドコモダケスマートフォンホルダー」を通販サイト「dショッピング」で発売した。製作は地元の「Yes工房」で、5000個限定販売。1200円の価格には森林保全クレジット分として300円を含んでいる。1個売れると年間約50平方㌥の森林保全に役立つという。

ドコモは2011年12月に東北復興新生支援室を本社に設置。全国の社員からメンバーを公募し、現在メンバーは17人。担当課長の山本圭一さん（40）は、法人営業部門から加わった。現地に少なくとも月2回は足を運び、農作業も手伝う。「復興へ向けてプロジェクトをいかにして継続、持続させるかが大事。南三陸だけでなく、ほかの被災地でも地元が望んでくれれば、これまでのノウハウを活用して復興と自然環境の保護に取り組んでいきたい」と話した。

編集部・寺門充